

# 「精神科病院・障がい相談支援事業所と事例検討会の開催」

## 【現状と課題】

総合相談、介護予防ケアマネジメントの支援の際に、行動心理症状や精神症状により支援が難しいケース、子が障害を抱えている高齢者の世帯のケースが増えている。このような状況から複合的な課題を有しているケースに対して包括単体での支援には限界がある。精神科病院や障がい相談支援事業所と顔の見える関係を作り、一緒に連携できることを目指し、事例検討会を開催した。



## 【取り組み内容】

### 顔の見える関係作りのため事例検討会を開催

#### ①第1回目 対面開催 精神科病院1機関・障がい相談支援事業所2機関・居宅介護支援事業所・包括参加

「アルコール問題を抱え認知機能の低下がある80代の本人と在宅酸素の要支援2の妻の世帯の支援に関して～受診を勧めても拒否が強く救急入院になった～」

#### ②第2回目 オンライン開催 精神科病院4機関・障がい相談支援事業所2機関・家庭児童相談室・包括参加

「母70代（介護認定なし）、娘30代（統合失調症）、孫10代（自閉症スペクトラム）の世帯支援に関して～食事準備を担っていた30代娘が通院を中断するようになり食事に困っている～」

#### ③第3回目 オンライン開催 精神科病院4機関・障がい相談支援事業所2機関・居宅介護支援事業所・包括参加

「統合失調症の40代の長女が明らかに精神症状が悪化している状況で80代の母親を施設から自宅へ連れ帰ろうとしているケース～どのように支援できたか検討したい～」

## 【評価（成果・課題）】

- 各機関の特色や支援体制について理解を深めることができ、介護と障害を抱える複合的なケースでの支援体制について協議することが出来た。区外の精神科病院にもご参加頂き、各機関の立場で支援できる内容を深めることができた。
- ケースの支援に困った時、関係機関でZoom等のオンラインを活用し集まり、ケースの性質毎にリーダーを決め、役割分担が出来ると良いと話し合うことが出来た。

## 【今後の課題】

- 障害や精神症状がある複合的な課題を有しているケースに包括が支援に困った時、事例検討会に参加頂いた関係機関と実際の場面で一緒に支援を考え、連携を図れるかが今後の課題である。
- 包括が抱える地域の現状を継続的に発信する仕組みづくりが必要である。